

三群警備保障 株式会社

Company Profile

03

所在地	直方市丸山町2-34
業種・事業内容	警備業・小売業(ガソリンスタンド)
設立年	平成16年
社員数	50名(うち60~64歳8名、 65歳以上25名、最高齢者80歳)※取材時
シニア人材の雇用制度	定年なし



POINT

- シニア人材の積極的な新規雇用
- 資格手当によるモチベーションアップ
- コミュニケーションを重視した働きやすい環境づくり

シニア人材を積極的に新規雇用している

三群警備保障株式会社の猪岡なほみ代表取締役役にお話を伺いました。



猪岡なほみ代表取締役

外崎めぐみ専務

企業の沿革、特徴、理念

—まず、会社の沿革についてお聞かせください。

平成16年4月に先代社長である勝野晃有が、個人事業主として警備業を始めました。株式会社としての設立は、平成21年9月です。

勝野社長は、警備業を始める前、自衛隊の医官として長年勤務していました。自衛官の定年は、職務の特性上、一般より若く設定されています。「若年定年制自衛官」として採用された場合は、階級によって差はありますが、多くが50歳代半ばで退官します。「任期制自衛官」ですと、20歳代～30歳代半ばで、任期満了退職を選択する人もいます。勝野社長は、そういった人達の再就職先の選択肢を増やしたいとの思いで、警備業を始めたと聞いています。

3年前には、ガソリンスタンドの経営も始めました。警備以外の職域を増やそうという考えから、他の会社が経営していたスタンドを引き継ぐ形で始めました。

勝野社長は、昨年5月に病気で急死しましたので、専務だった自分が、急遽社長に就任することになりました。私にとって社長就任は青天の霹靂だったこともあり、日々トップの大変さを痛感しているところです。先代は、経営者としていつも従業員ファーストで、社会貢献の意識も高い人でした。

—今も従業員ファーストは変わりありませんか。

もちろんです。利益は従業員に還元する方針ですので、できるだけ給料に反映させていきたいです。会社を大きくすることも挑戦的でいいと思いますが、警備業界も新型コロナの影響を受け、警備の依頼が減りましたので、堅実な経営も重要だと考えています。

私の社長就任は緊急措置的でしたので、今後の経営者の交代は、従業員を不安にさせないためにも、安定した状態で行わねばならないと考えています。

会社の理念として「一般市民が安心して生活できる社会づくりに寄与する」や「隊員の資質を高め地域社会に寄与する」を掲げていますので、そういった方針も忘れずに引き継いでいきたいと思っています。

シニア人材の雇用（新規雇用）

—従業員の半数以上が60歳を超えていますね。

やる気と元気があれば年齢は問題にしていませんので、定年を設けていません。最初にお話ししたとおり、自衛官を退職した人の再就職先との考えで会社を興しましたので、当初から積極的にシニア人材も採用しています。一般企業を定年退職した人も多数採用してきました。70歳現役応援センターから紹介してもらった人も働いています。

—どのような人材を求めていますか。

警備の仕事は依頼元に信頼してもらわなければなりませんので、やる気と元気に加えて、真面目

で責任感が強い人に来てもらいたいです。チームワークも大切ですので、協調性も重視しています。

業務体制

—新規雇用のシニア人材が多いということですが、研修などはどのようにしていますか。

警備業法では、シニアに限らず新人警備員は、基本的法令や知識、心構え、技能等について、新任教育を20時間受けてから業務に就くよう定められています。我が社の新人は、会社敷地内の研修センターで、警備員指導教育責任者^{※1}の資格を持つ先輩警備員による研修を受けてもらいます。中小規模の警備会社が常設の研修センターを有しているのは珍しいため、年1回の警察の立入検査^{※2}でも好意的な評価をいただいています。

新任教育後に実務に就きますが、最初は通行止めなどの比較的簡単な業務から始めてもらい、OJTによって学ぶことで、徐々に高度な業務を担当してもらいます。資格取得によるステップアップも推奨しています。

- ※1 警備員指導教育責任者
警備業務に関する専門的知識及び技能を有する者で、警備員に対する指導、教育を行うことができる国家資格
- ※2 立入検査
警備業法に定められた規定を順守しているか確認するため、定期的に警察が行う実地検査

—どのような資格を取得すればステップアップできるのですか。

警備員指導教育責任者の資格の他に、警備業務の種類別に国家検定資格があります。施設警備、雑踏警備、交通誘導警備など6種類で、それぞれ1級と2級があります。従業員には、こういった資格を積極的に取得するよう勧めています。

検定に合格すれば、資格手当を加算しますので給料も上がります。高度な資格ほど手当も高くなっていますので、モチベーションアップに繋がると思います。

—働き方や社風で、御社の特徴があれば教えてください。

それぞれの体力や家庭の事情に配慮した人員配置をするようにしています。例えば、高齢になる



研修センター

と、建設現場での長時間の警備が体力的に厳しくなることもありますので、可能な限り本人の希望に応じた配置をしています。本人の希望で、葬儀場などの短時間の警備や、ガソリンスタンド勤務に異動した人がいます。

また、警備業界は一般的に直行直帰の勤務形態が多いのですが、直行直帰は、通勤時間のロスがなく効率的に時間を使えるメリットがある反面、従業員同士の接触が少ないことによるコミュニケーション上の問題や、会社へのエンゲージメントが向上しないデメリットがあると考えています。

そこで、我が社ではデメリット解消のため、**定期的なミーティングや従業員同士の交流の場**を設けています。交流の場は常設の研修センターを活用し、夏場はアイスクリームや冷たいドリンク、冬場は温かいコーヒーなどを用意して、従業員が仕事終わりのくつろぎの時間を共に過ごせるようにしています。そうすることで、従業員同士がコミュニケーションを深め、仕事にもいい影響を及ぼすと思います。また、従業員と会社が一体となって、お互いに成長しあえるエンゲージメントにも効果があると期待しています。

年1回の親睦会も、コミュニケーションやエンゲージメントの向上に役立っているかもしれません。親睦会の目玉は、テレビや自転車など豪華景品も当たるくじ引きです。くじ引きは、勝野社長がいつも頑張ってくれている社員皆に何かプレゼントしたいと、ポケットマネーで始めた恒例行事で、大変盛り上がりますし皆楽しみにしてくれました。今は新型コロナで、親睦会のような飲食を伴うレクリエーションはできないのですが、収まればまたやりたいですね。

今後の展望

一最後に生涯現役社会、人生100年時代に向けた展望についてお聞かせください。

昔のいわゆる“年寄り”に比べると、今のシニアは身体的にも精神的にも若い人が多いと思います。実年齢は変えようがありませんが、心の年齢は自分で決められるものだと思いますので、「もう70歳」ではなく「まだ70歳」という考え方を持たなければと思います。年を重ねても、働く場があれば思考もポジティブになりますし、健康寿命も伸びると思いますので、これからも**シニアが活躍できる職場を提供**していきたいです。

一取材にお伺いした日は、月1回の全体ミーティングの日でしたので、三群警備保障(株)で働く皆さんからお話を伺いました。

山田功さん (80歳)

「最長老の警備員」

70歳になったときにひ孫が誕生し、自分もまだ頑張りたいと思った矢先に、この会社の求人を見つけました。公務員として働いていた期間が長く、警備員の経験はありませんでしたし、70歳を過ぎて新たに就職先を見つけるのは難しいだろうとあきらめの気持ちもありましたが、先代の勝野社長から、やる気と元気があれば年齢不問と言ってもらいました。2年ほどフルタイムで建設現場の警備をしましたが、社長と相談して、体力に見合った短時間の警備に変えてもらいました。70歳から10年も働き続けることができるのは夢にも思っていませんでしたが、私にとって仕事は健康の秘訣ですし、会社に少しでも貢献したい気持ちもあって働いています。この会社ではいい出会いがたくさんありました。周囲の人達に恵まれたと思います。



山田功さん

田代哲三さん (75歳)

「75歳。経験がなくても大丈夫」

入社したのは1年ほど前です。仕事がないと暇を持て余してしまうことと、完全に仕事からリタイアする前に、警備員をしないと前から思っていたので、この会社で働くことにしました。経験は全くありませんでしたが、比較的短期間で慣れることができたので、警備の仕事は、元気で仕事を探しているシニアにはお勧めの職種かもしれません。今はフルタイムで建設現場の警備などを担当していますので、体力はある方だと思います。元気なうちは働き続けたいですね。



田代哲三さん

武田信介さん (60歳)
「意欲がある新人シニアは戦力です」

24時間営業のセルフ式ガソリンスタンド「ミータス直方新入」で、所長として勤務しています。別会社がスタンドの経営をしていた頃から働いています。三群警備保障が経営を引き継いだとき、自分も会社を移籍しました。ミータスのメンバーは、私の他に20歳代が1人、30歳代が1人、70歳代が3人で、年齢層が幅広く、全員ガソリンスタンド業に必要な危険物取扱者の資格を持っています。70歳代の社員は、別の会社を定年退職した後に入社した人達です。仕事に対する意欲があるので、貴重な戦力になっています。年上の部下を持つことの「やりにくさ」を感じたことはありませんが、長年サービス業とは無縁の業界で働いてきたシニアは、接客スキルを身に着けるまで苦労するようです。

かくいう私もシニアになりつつありますが、できるだけ長く働きたいと思っていますので、定年がないのはありがたいです。



武田信介さん

中村尚之さん (67歳)
「若い所長を支えるシニア従業員」

フルサービスのガソリンスタンド「SGS直方上頓野」で勤務しています。私の他に20歳代が1人、50歳代が1人、大学生アルバイトが1人います。私が最も年上で、三群警備保障が経営を引き継ぐ前から働いているので勤務歴も長いのですが、20歳代の社員が所長です。所長は学生時代にアルバイトとして勤務し、いちどは他の会社に就職しましたが、社員として戻ってきてくれましたので、嬉しかったですね。今は一従業員として所長を支えています。この会社は、現場に任せてくれる部分が大きいのでやりがいも感じられ、働きやすいです。



中村尚之さん

白濱美穂さん (44歳)
「年上部下を率いる若手女性隊長」

競艇場の場外発売所「ボートピア勝山」で、施設警備の隊長をしています。ボートピア勝山の警備員は、40歳代から70歳代の15名で構成されていて、隊長の私よりも若いのですが、いわゆる「年下上司・年上部下」問題を感じたことはありません。

この会社のシニアは、仕事に対する意識が高いと思います。シニアの新人も、いい意味での負けん気が強く、早く仕事を覚えよう、周囲の人に追いつこうとする姿勢があって、新しい職場に柔軟に対応できる人が多いです。仕事の進め方に関する意見も率直に言ってくれます。時々議論になることもありますが、効率化につながり良い結果を生んでいます。

雰囲気オープンでコミュニケーションもとりにやすく、働きやすい職場です。私はまだシニアではないですが、体が続く限りは働き続けたいと思っています。



白濱美穂さん

★取材を終えて★

月1回の全体ミーティングの日に訪問したので、従業員の皆さんが次々帰社される中でのインタビューとなりました。従業員同士で会話がはずんでいる様子も拝見し、コミュニケーションを重視した職場の雰囲気が伝わりました。

高齢者雇用における優良企業としての取材でしたが、女性が経営幹部やリーダーとして活躍されていることや、若い従業員がガソリンスタンド所長を任されていることもお聞きして、エイジフリーでジェンダーフリーでもあると感じました。

